## タイガーとシェフラー

ゴルフ界最大の祭典、２０２４年マスターズが終わった。マスターズのテーマソングの歌詞には次の有名なフレーズがある。

「日曜日の午後に、グリーンジャケットを羽織るのは誰なのだろう」である。

この美しいメロディの主人公は、大方の予想通り、シェフラーだった。世界ランキングトップで、マスターズ前の直近３試合では、２連勝。残りの１試合も２位タイと抜群のコンディションで、彼はマスターズに乗り込んできた。海賊を思わせる髭を生やし、自信満々で４日間をプレーした。

フィニッシュで左足に全体重をかけるという独特なフォームは、一見不安定そうで、なおかつ相当な背筋力が要求される。ゴルフ界には、かつての、アーノルド・パーマーや、リー・トレビノ、日本でも青木功など、個性的なスイングの選手は存在したのだが、彼ほどフィニッシュ時にほぼ左足一本で立っているような選手はいなかった。

１９１センチ、91キロの巨体。持ち玉のフェードボールだけでなく、ストレート、ドロー、さらに高低の打ち分け、加えて、課題になったパッティング技術も向上した彼に、しばらくライバルは出てこないのではないかとさえ思う。今回のマスターズの制覇で、「シェフラー時代の到来」をたくさんのゴルファーが予感したであろう。

さて、オーガスタはさらにサイドストーリーも用意してくれた。やはり、タイガー・ウッズである。３日目にこのオーガスタで自己ワーストの「82」を叩き、52位で迎えた最終日も１バーディー、３ボギー、１ダブルボギー「77」でフィニッシュ。自身、26度目のマスターズは、アマチュアとして予選落ちした１９９６年を除き、彼のプロキャリア、ワーストとなった。

16番（パー３）に入った時点で、タイガー・ウッズの名前はスコアボードの下位に沈んでいた。ショットが荒れて、ここでも左手前のバンカーへ。池を回って、グリーンに近づいてきたウッズの姿に、パトロン※たちは総立ちで拍手を送る。そして、まるでマスターズのテーマソングのように、ファンが口にしたのは、「Ｔｈｉｓ　ｉｓ　ｔｈｅ　Ｍａｓｔｅｒｓ!!」という声援である。数々の伝説を残してきたオーガスタでは、自身マスターズ１００ラウンド目にあたる18番のティーイングエリアにタイガーが入ると、何千人ものパトロンが、一斉に立ち上がって「Ｔｉｇｅｒ!!」と叫ぶ。わずかに、左足を引きずっているようにも思える。オーガスタを４日間完走し、しかも、シェフラーという新しいスターが誕生した安堵感がそこにはあった。

「体を動かし続け、強くなって、僕は長く練習できるようになる」。この言葉は、タイガーだけでなく、全てのアスリートを勇気づける言葉でもある。

※マスターズでは観客のことをパトロン（支援者）と呼ぶ。これは大会の創生期、資金難に陥った時にメンバーの資金援助などで運営費を賄ったことに由来する。

**戸張　捷**　Sho Tobari

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、３年で全日本ジュニア３位、大学４年で日本アマ９位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。